斐川町文化財調査報告９

中国電力平田支線鉄柱建設に伴う発掘調査概要

1988年８月

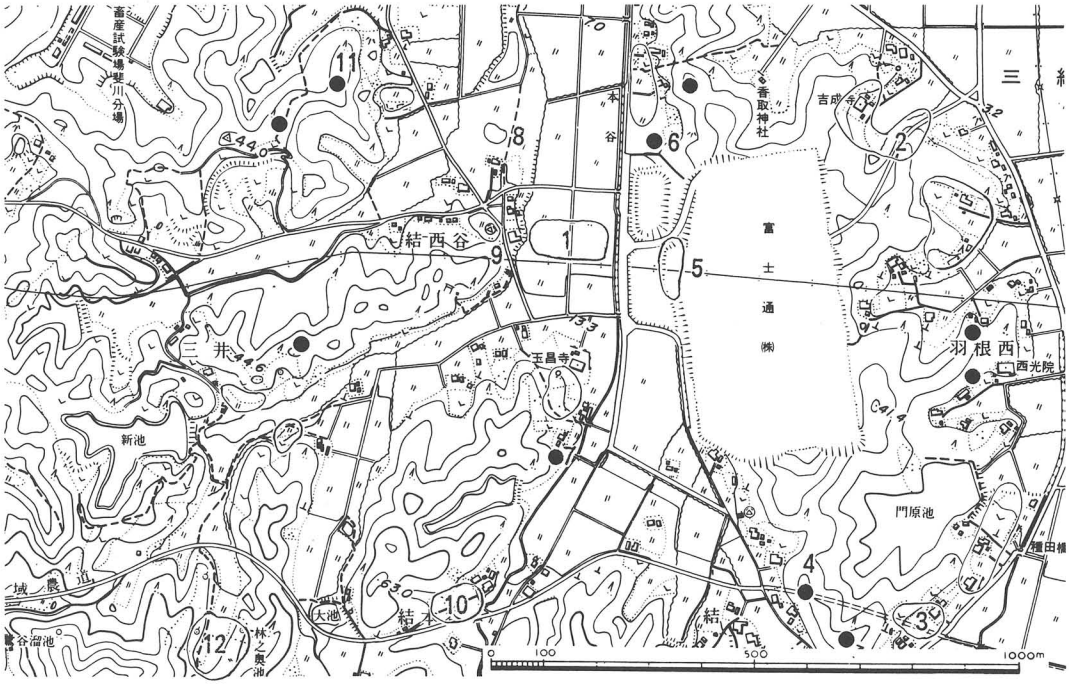
島根県　斐川町教育委員会

1　は　じ　め　に

中国電力株式会社島根支店は、特別高圧架空送電線（平田支線№36～47号間）ルートの変更工事を計画し、これに先立って、昭和63年６月20日付けで斐川町教育委員会に「埋蔵文化財試掘調査」の依頼を行った。早速、依頼を受けた町教育委員会が分布調査を行った結果、当該鉄柱変更予定地には周知の遺跡が存在しないが、地形や周囲の状況から判断して、以下の予定地の試掘調査を実施することを決めた。

（鉄柱番号）		（調査区番号）
○№38号	―――＞	○№38調査区
○№41号	―――＞	○№41調査区
○№42号	―――＞	○№42調査区
○№43号	―――＞	○№43調査区

調査は昭和63年７月12日から８月６日まで行った。その結果、№43調査区を含む広い範囲で遺跡の存在が確認された。そして、直ちに町教育委員会は土地所有者と協議して、文化財保護法の規定に従って「遺跡発見届」の手続きを行い、直江石橋Ⅱ遺跡と命名した。



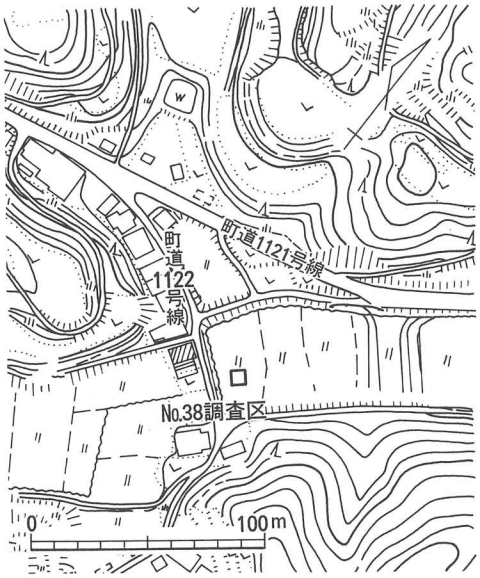
1．直江石橋Ⅱ遺跡　2．三絡Ⅶ遺跡　3．武部西遺跡　4．西・石橋古墳群　5．結古墳群　6．貴船古墳
7．結城古墳　8．八斗蒔Ⅰ遺跡　9．結西谷Ⅰ遺跡　10．結本谷Ⅰ遺跡　11．堀切古墳群　12．直江石橋Ⅰ遺跡

第１図　直江石橋Ⅱ遺跡と周辺の遺跡

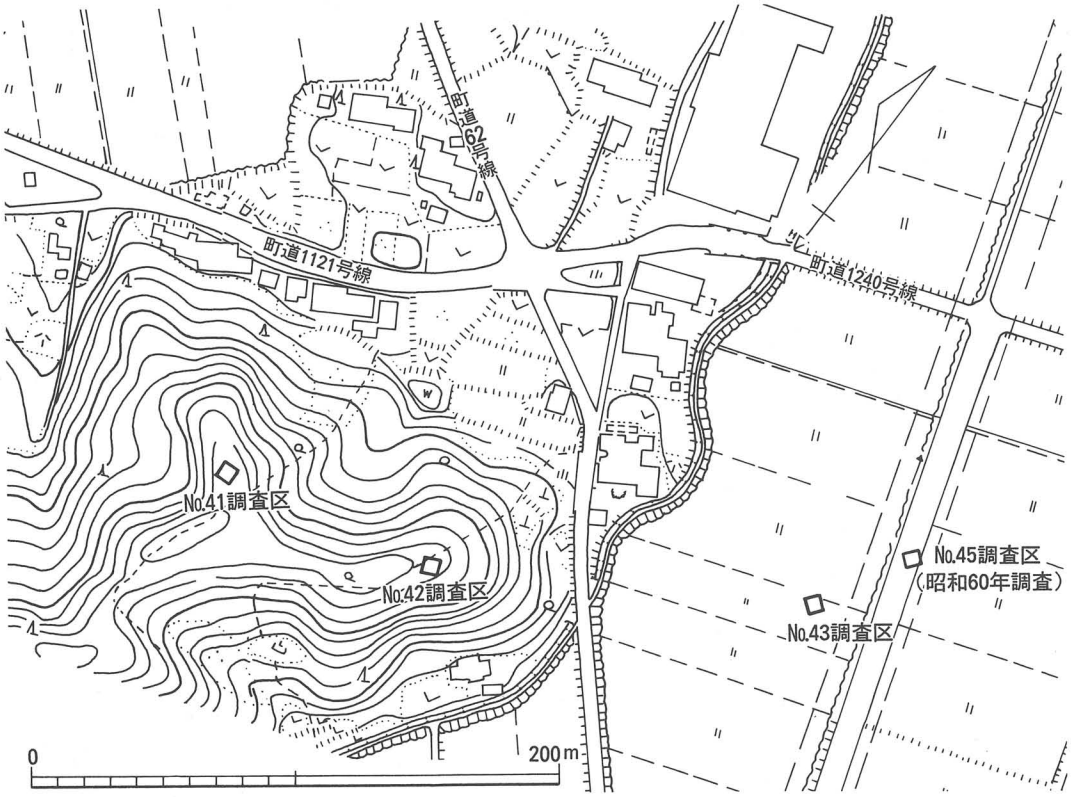
2　直江石橋Ⅱ遺跡と周辺の環境

直江石橋Ⅱ遺跡は簸川郡斐川町大字直江町2904－2番地外に所在し、標高９ｍの水田中に存在する。遺跡が水田下にあるため、範囲、性格等を知ることができない。

本遺跡の周辺では近年多くの発掘調査が行われている。とくに昭和59、60年に大規模な発掘が行われた結（むすび）遺跡では、約30基の小規模古墳群や古墳時代前期から奈良時代の集落跡のほか、縄文土器や石器も出土している。また、西・石橋古墳群中の西１号墳は昭和61、62年に調査が行われ、主体部から県内で３例目という茎に刳り込みのあ



第２図　調査区位置図



第３図　調査区位置図

る鉄製大刀が出土した。[1]

さらに昭和61年から62年にかけては直江石橋Ⅰ遺跡や武部西遺跡が発掘され古墳時代から奈良時代にかけての掘立柱建物跡が検出されるなど、直江地内の古代が徐々に解明されつつある。（第１図）

3　調 査 の 概 要

調査区はNo.38、No.41～43の４ケ所である。現況はNo.38とNo.43が旧水田、水田上の調査区、No.41とNo.42が丘陵上の調査区である。いずれもほぼ３ｍ四方の調査範囲である。以下、それぞれの概要を記す。

写真１　No.43調査区（直江石橋Ⅱ遺跡近景）（南西）から

No.38調査区

地表下約70㎝で灰白色粘土が検出され、さらに20㎝掘り下げたが変化ないので中止した。灰白色粘土の上層には灰黒色粘質土が厚さ15㎝前後堆積する。この層で遺物は出土しなかったが、灰白色粘土の上面が平坦で比較的締まった粘土であることから、周囲に遺構が存在する可能性がある。　（第2、4、5図、写真2、6）

No.41調査区

表土下約40㎝で地山に達した。調査区の南寄りで二段に落ち込む土坑状遺構が検出された。これは長さ２ｍ、幅0.7ｍ以上を測り、深さ10㎝でさらに落ち込む。土坑の形状は南へさらに広がる可能性があるために不明である。坑底は平坦で、表土から深さ65㎝を測る。埋土には淡黄色系の土に白色ブロックが混じり、遺物は出土していない。（第3、4、6図、写真4、6）

No.42調査区

表土下約30㎝で地山に達した。調査区がやや斜面に位置するためか暗黄色土が流れ込みで堆積している。根による攪乱が多く、遺構・遺物は検出されなかった。（第3、4、6図、写真6）

No.43調査区

地表下150cmまで掘り下げたところ青灰色砂礫層に達し、これより下は危険のため掘ることができなかった。表土下の灰色土と暗灰色粘質土は昭和40年代後半の圃場整備盛土と考えられる。その下層の黒灰色粘質土からは古墳時代から奈良時代にかけての須恵器甕[2]片が一点出土した。さらに下の土層は粘質土と砂質土が交互に堆積し、最下層の青灰色砂礫層に至る。

なお、掘り上げた土（圃場整備土）内から須恵器坏片が１点出土した。

（第3、4、8図、写真1、3、5、6）

写真２　No.38調査区　南壁

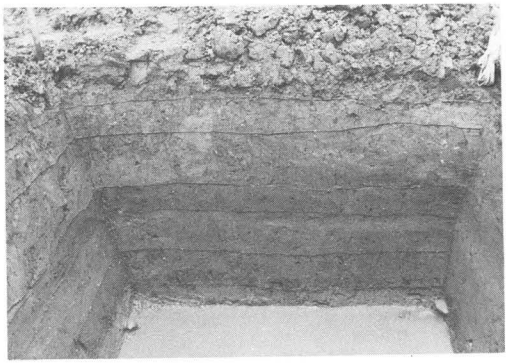


写真３　No.43調査区　東壁

写真４　No.41調査区　土坑状落ち込み（東から）

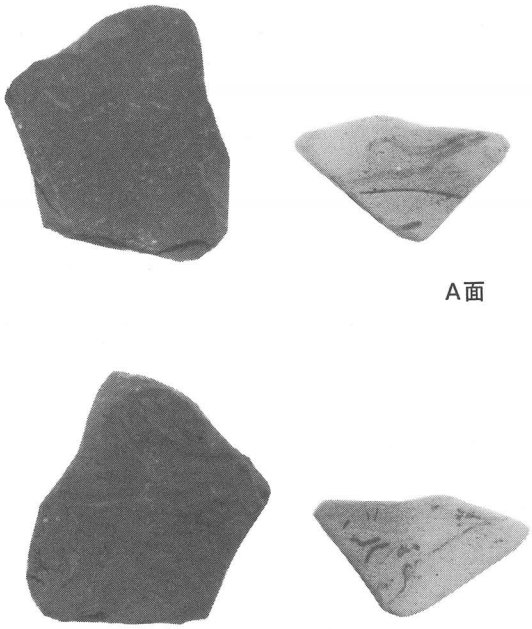
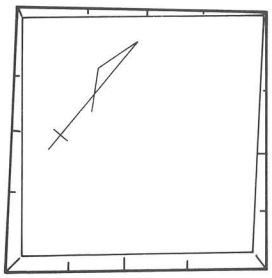
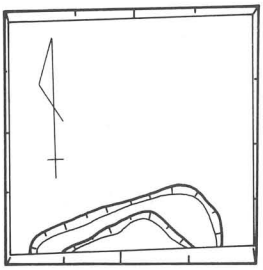


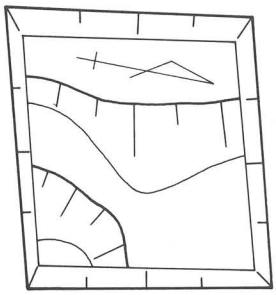
写真５　No.43調査区　出土遺物



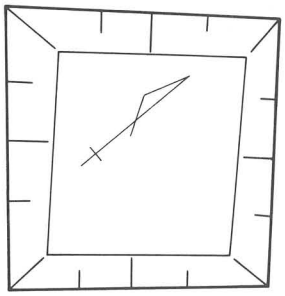
No.38



No.41



No.42

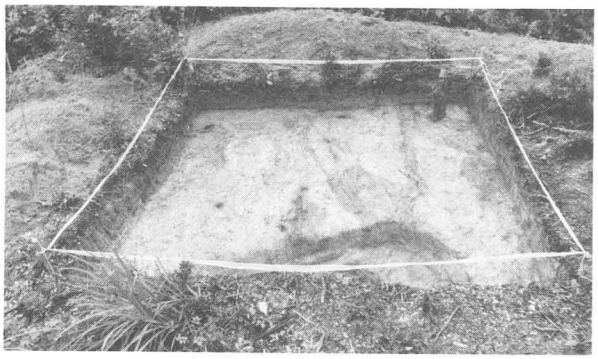


No.43

0　　3m

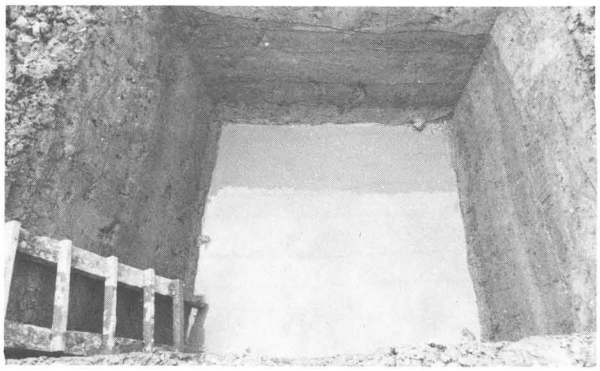
第４図　調査区平面図

No.38　南西から



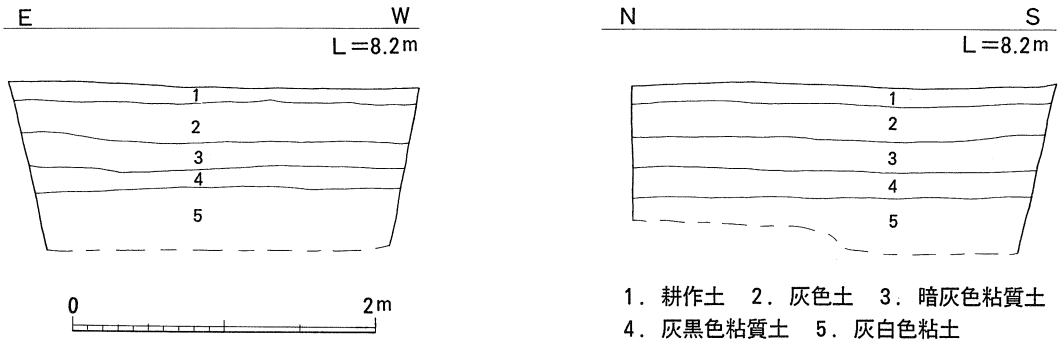
No.41　南から

No.42　東から



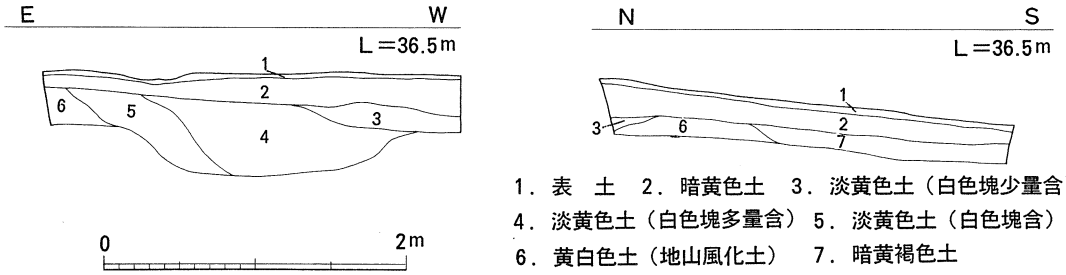
No.43　南東から

写真６　調査区全景



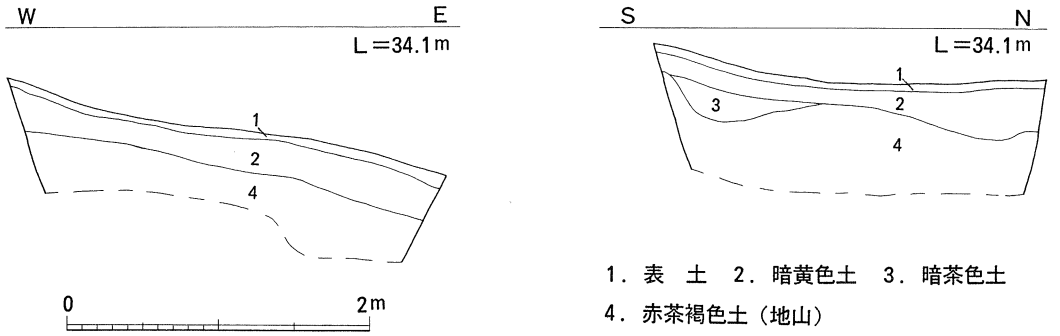
1．耕作土　2．灰色土　3．暗灰色粘質土
4．灰黒色粘質土　5．灰白色粘土

第５図　No.38調査区　南壁土層図（左）と東壁土層図（右）



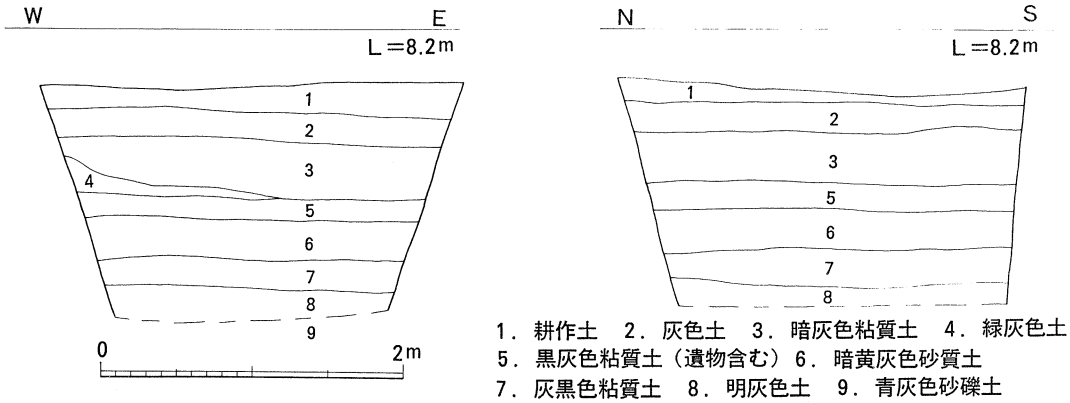
1．表　土　2．暗黄色土　3．淡黄色土（白色塊少量含）
4．淡黄色土（白色塊多量含）5．淡黄色土（白色塊含）
6．黄白色土（地山風化土）　7．暗黄褐色土

第６図　No.41調査区　南壁土層図（左）と西壁土層図（右）



1．表　土　2．暗黄色土　3．暗茶色土
4．赤茶褐色土（地山）

第７図　No.42調査区　北壁土層図（左）と西壁土層図（右）



1．耕作土　2．灰色土　3．暗灰色粘質土　4．緑灰色土
5．黒灰色粘質土（遺物含む）6．暗黄灰色砂質土
7．灰黒色粘質土　8．明灰色土　9．青灰色砂礫土

第８図　No.43調査区　北壁土層図（左）と東壁土層図（右）

4 おわりに

今回の調査は4ケ所とも非常に狭い範囲であったにもかかわらずNo.43調査区で遺跡が認められたことが大きな成果である。

No.43調査区は今回遺構こそ存在しなかったが、地表下約60cmの黒灰色粘質土に遺物が含まれ、この層が周囲へも広がることが充分に考えられる。また、昭和60年の発掘でNo.43調査区付近のNo.45調査区（第3図）で5点の遺物が出土していることも考えあわせると、かなり広い範囲で遺跡が存在することが考えられる[(3)]。今後の資料に資することとしたい。

註

(1) 「奥山遺跡発掘調査報告書」島根県教育委員会　1988年

(2) 山本清「第九章山陰の須恵器」『山陰古墳文化の研究』所収　1971年

(3) 「中国電力特別高圧架空送電線平田支線移設に伴う発掘調査概要」斐川町教育委員会　1985年

中国電力平田支線鉄柱建設に伴う
発掘調査概報

１９８８年８月

発　行　　島根県簸川郡斐川町荘原2172
斐川町教育委員会

印　刷　　島根県簸川郡斐川町坂田1664
島根印刷株式会社
ＴＥＬ（0853）63 - 3500